

【予告】検査項目受託中止のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
 このたび、下記検査項目におきまして、検査内容を変更させていただきたくご案内いたします。
 何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます

敬白

記

- 中止理由：日本臨床化学会（JSCC）のALPとLDの常用基準法が国際臨床化学連合（IFCC）の基準測定操作法と同一の測定法（IFCC法）に変更になったため

- 実施日：2021年3月31日（水）ご依頼分をもって受託中止

■ 中止項目

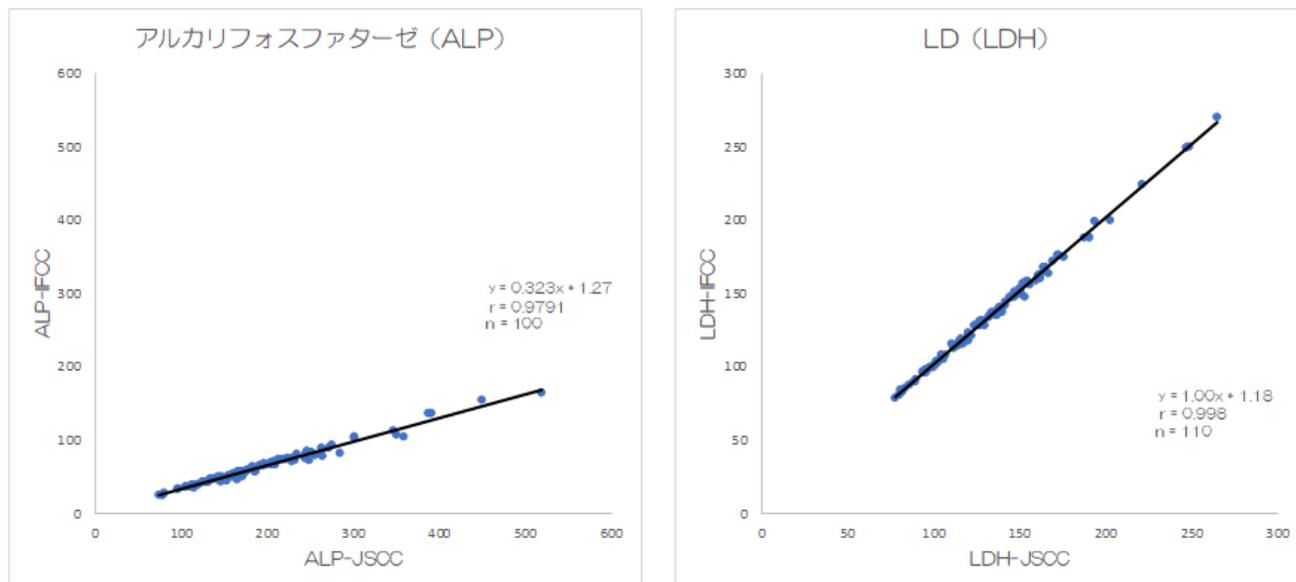
項目コード	項目名	実施料	所要日数	検査方法	基準値（単位）
00172	LD (LDH)	11点	1~2	JSCC 標準化対応法	115~245 (U/L)
00163	アルカリフォスファターゼ (ALP)				115~359 (U/L)

■ 代替項目

項目コード	項目名	実施料	所要日数	検査方法	基準値（単位）
L7741	LD (LDH) IFCC	11点	1~2 ^{※1}	IFCC 標準化対応法	124~222 (U/L)
L7732	アルカリフォスファターゼ (ALP) IFCC				38~113 (U/L)

※1：上記IFCC法は、既に受託可能ですが、現在は、所要日数を2~4日とさせて頂いております。（SRL外注）

■現行法と新法の相関図



■変更内容

日本臨床化学会（JSCC）より、ALPとLD の常用基準法を国際臨床化学連合（IFCC）の基準測定操作法と同一の測定法（IFCC 法）に変更することとし、【2020 年4 月1 日より準備の整った施設から変更を開始し、1 年間での達成を目指します】との発表がありました。これに伴い、弊社としても2021年4月1日よりIFCC法への全面切り替え（ラボ内検査）を実施します。

■変更時の注意点（*2）

1) アルカリフォスファターゼ（ALP）

- 測定値が現行の1/3 程度の数値になります。
- 変更前後の値の換算には限界があります。IFCC 法に変更することで血液型B,O 型では小腸型ALP を含む検体で低めになり、逆に妊婦では胎盤型ALPが増加することにより高めに測定されます

2) LD（LDH）

- 変更前後の測定値の差が軽微であり、健常者の測定値は許容誤差範囲内の変化であることから、現状の共用基準範囲を変更する必要はありません。
- LD5 優位検体では現行のJSCC 法に対して低めの活性になります（LD5 が50%の症例では測定値の差は20%未満）。

3) 測定結果について

- 新規項目となりますので、新旧法比較はご注意願います。

※2）：日本臨床化学会ALP・LD 測定法変更について- 医療従事者向け —ver. 1.0 (2019.11.21)